

令和5年度（2023年度）厚生常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和5年（2023年）9月7日（木）
- 2 視察者 厚生常任委員会（8名）
楠本千秋（委員長）、坂梨剛昭（副委員長）、岩下栄一
岩中伸司、藤川隆夫、鎌田聡、高野洋介、杉嶋ミカ

3 視察の概要

(1) NPO法人熊本福祉会 就労継続支援A型事業所「翔」（熊本市西区）

熊本福祉会は、障がい者の就労を支援する場（就労継続支援A型）として、事業所独自で農業を開始し、野菜の栽培を行うほか、玉ねぎの収穫作業等を農家から受託している。

今回の視察では、障がい者の農福連携の取組状況等について説明を受け、説明後に同事業所の農園にて農作業の様子を見学した。

同法人からは、障がい者の賃金は安いというイメージを変えたいとの思いで農業に取り組んでおり、最終的には安心安全な野菜としてブランド化していきたいとの説明があった。



(2) 社会福祉法人玉医会 たまきな荘（玉名市）

玉医会では、福祉・医療・地域生活が緩やかにつながる取組を行うことで地域に開かれた福祉拠点となることを目指し、医療と福祉を融合させた施設を有するとともに、児童・障がい者に係るサービスを幅広く実施している。

また、生活困窮者への支援としてフードパントリーを設け、食料品や生活必需品等の物資を配布する配布会の実施のほか、学校・家庭に次ぐ子どもの第三の居場所を開くなど、地域福祉の核を担っている。

今回の視察では、地域における包括



的な支援体制の整備について説明を受け、施設内を見学した。

同法人からは、2019年4月、困りごとを抱えて生きる人を中心に助けたり助られたりが当たり前の地域づくりに誰もが参加できる場として「地域福祉交流館 FindingR」を造り、同施設にて「フードパントリーみんなのれいぞうこ」及び「子どもの第3の場でいんぐる」などの事業に取り組んでいるとの説明があった。

(3) 荒尾市民病院（荒尾市）

荒尾市民病院は、有明圏域の二次救急や、脳卒中並びに心筋梗塞等心血管疾患の急性期拠点病院であり、病床数は274床（一般270、感染症4）で、外来患者数は年間延べ約10万人、救急車の受入れは約2,000件となっている。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延時には、有明保健所と連携し、新型コロナの患者を積極的に診察し、受入れを行った。

今回の調査では、新型コロナウイルス感染症に対する当病院の取組等について説明を受けた。

同病院から、有明地域で大規模クラスターが発生した際に、当時陽性患者は入院させる考え方が一般的であったが、同病院では、陽性患者でも若くて元気な無症状の場合は、入院させずに電話診療や自宅訪問で重症化リスクを判断しながら対応したとの説明があった。

